名古屋経済大学

経済学部特別研究室

中日新聞で紹介された活動

特別研究室のメンバー（奈良にて実習）

中日新聞　（第3種郵便物認可）

学生街ダンス

犬山の未来を照らす

「犬山城下町踊り」にアート作品

名古屋経済大の地域社会特別研究室に所属する私たちは、奈良の「燈花会」を参考に、八月下旬に愛知県犬山市で開かれた「犬山城下町踊り」でアート作品を出しました＝写真。

燈花会は、特殊な容器に水をはり、その上にろうそくを浮かせて灯をともします。約十万個のろうそくが不死鳥や光の回廊を描き出します。歴史を感じさせますが、一九九九年に市民の自発的な発想から生まれた新しい祭りです。

私たちは「なら燈花会」で覚えた明かりのアートのノウハウを犬山のにぎわい創出に役立てたいと考え、まちづくりに携わっている人たちと話し合いました。その結果、城下町踊りが行われる二日間、盆踊り会場近くでアート作品を出品することになりました。

初日は雨。一度つけたろうそくの火が消えてしまったり、意図したデザインが描けなかったりと、うまくいきませんでした。二日目は初日の反省を生かし、祭りの実行委員の方々からアドバイスを受けてろうそく三百本を使ってきれいなアートを描くことができ、見物人に感動してもらえました。今後は、奈良の燈花会や名古屋の「どまつり」のようなイベントに発展させたいと思っています。

名古屋経済大3年　多島　彩香

学生街ダンス

地域との連携も強化

「デジタル安全マップ」作製

名古屋経済大の経済学部は、フィールドワークを柱とした授業「地域調査」で、大学がある愛知県犬山市楽田小学校区の事件・事故の起こりそうな危険な場所を調べ、安全マップを作製した。

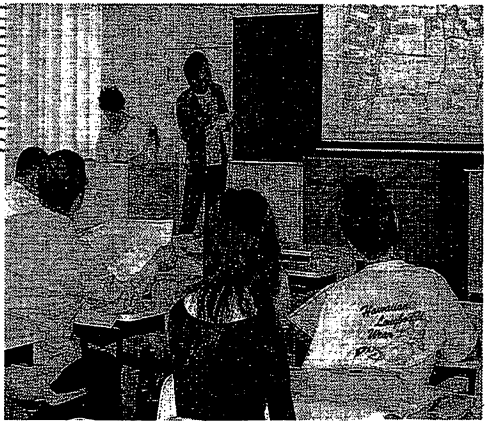
犬山警察署や地元住民から、事件・事故の発生状況や、安全と関連した楽田地域のコミュニティー活動について話を聞き、実際の様子を知るため、皆で地域をバスで回った。

地域を四つに区分けして、三種類の調査活動を行った。一つは、アンケート。楽田小学校、犬山南高校の児童・生徒、団地の自治会に協力をお願いした。二つ目は、聞き取り調査で、交番や塾、工場団地などで行った。三つ目は野外調査で、アンケートや聞き取り調査を元に、各グループが担当地区に出かけて、状況を確認したり、マップに添付する写真を撮ったりした。

集めた資料を整理・分析し、交通事故、道が細い、不審者、落書き、こども一一〇番の家などの情報をパソコン上の地図に載せていった。安全マップは大学のホームページ（http://www.nagoya-ku.ac.jp/）から見ることができる。昨秋の大学祭で、地元住民への報告をかねて、デジタルマップの操作方法を実演した。その時、参加者から受けた不備や改善へ向けてのアドバイスを参考に改良した。

自分たちの足と眼で現場を確認したことで、地域への親しみが今まで以上に大きなものになった。この四月からは、楽田に隣接する羽黒地域にも調査の範囲を広げ、七月ごろまでには、広域な安全マップを作製することにしている。

名古屋経済大4年　大場　康晴



高校生を対象に、デジタル安全マップの説明をする名古屋経済大の学生